文芸欄

俳句

紅梅会（東灘区）

餅花や古尾の染に溶け込みぬ　美恵子
菊の香や三本仕立玄関へ　早智子
満月の真澄鏡を宝樹とし　朋子
書初め一字一句に心こめ　里子
書初めや部屋を包みし墨香る　比佐美
格式を引き継ぎ守る餅花よ　松子
餅花の季を心にし待ちわびて　扶喜子
餅花の影濃く淡く壁に揺れ　恵

梅苑句会（東灘区）

処暑の空孤なす白球風誘ふ　千穂子
耐へつつも弱音はく日もある猛暑　清子
いちじくの熟れたる枝に風の吹く　孝子
白き花と見まごうばかり鱧料理　シヅ子

宝愛句らぶ（中央区）

呼応して鳴く蜩のせつなさよ　和子
厄災を弾け飛ばして花火かな　悦子
パナマ帽出掛ける姿父想ふ　千枝子
原爆忌水一杯の有難く　道子
気がつけば蝉の鳴き声過ぎ去りし　恵子
夏帽子母を女性と見しあの日　丘
エアコンの手下となりぬ扇風機　和志
日もすがら日本列島蝉時雨　啓臣

梅の美会（兵庫区）

日の昇る待ちて朝顔鮮やかに　藤田ユイ子
色男八十路半ばや風寂し　岡田富早恵
炎天に遺品積む人皆無口　藤井歌子
生かされて三食味わう秋の膳　山口茂子
名月を話し相手に酒ちびり　山田朝子
畦道や等間隔に曼珠沙華　粟野富江

青葉クラブ（北区）

灯を消せば虫の音聞こゆ籠枕　馬場みつえ
年ごとに秋の趣身に染みぬ　前川弘子
歳時記をめくる指先そぞろ寒　山本恒雄

高原ときわ会（北区）

白露草ひとときの涼貰いけり　南久美子
石舞台群れて離れて秋茜　若林節子
窓越しに無念無想の秋季かな　松村二三枝
疫病の去りて清々秋まつり　笠井照子

ひまわり句会（北区）

輪投げする窓に初秋の風入れて　辻寿賀子
ひぐらしや木蔭で休む川掃除　石井敏子

ひよどり台句会（北区）

あらしすぎ明石海峡秋夕焼け　田中弘子
阿波おどり赤い蹴出しと下駄が舞ふ　筒井豊子
伝えねばポツポツ語る終戦忌　中井光子
炎天の一歩に萎える心かな　矢谷登美子

北斗句会（北区）

大戦と大患くぐりし生身魂　金行隆
原付の僧は路地抜け盂蘭盆会　増田嗣夫
湧き水の豊かな街の新豆腐　久松礼子
誰来しや酒と煙草の墓前かな　松本洋子
ステーキに舌鼓打つ生身魂　黒田久江

故郷に父母亡くて盆の月　岸下庄二
大戦をくぐりて寡黙生身魂　秋山弘之
生身魂父には灘の生一本　脇坂有多子
口げんか仲直りして心太　藤井久美子

多聞台ときわ会文芸部（垂水区）

山粧う思うは我が家我が故郷　中村佳代子
恥じらいてほんのり紅き新生姜　久下順司
山粧う旅の仕度をやり始め　山本雄二郎
山粧うシャッター通りの街静か　樋山隆夫
おろしソバ香と味深し生姜すり　木村敏博

きらく句会（西区）

霧晴れて口笛ひとつ吹いてみる　尾上正紀
夏日浴び川底光る石一つ　喜田弘征
この猛暑ゴーヤのカーテン枯れもせず　阪本道子
法師蝉鳴くや余命を知る夕べ　田野育利
ラムネ瓶振れば昭和の子に戻り　森本珠実
突然の豪雨落雷破れ傘　大橋治子

◆個人

落ち葉踏む音に季節の便り聞く（東）北田建樹
夫の手や丙の胡瓜を高々と（灘）都倉知子
窓開くる大樹に日毎蝉しぐれ（灘）福井悦子
千眼に残りし摩耶の紅葉山（灘）山上幸子
山眠る寂けき明かり山家の灯（北）竹村良子
松手入れ鯉のはねたる波紋かな（北）山田キミ子
睡蓮や悲話を秘めたる地に咲く（須）高橋純子
風鈴や思い出多き母の癖（須）福本和恵
若人の頂辺目指す甲子園（垂）田畑美恵子
のぞき見る小窓に高しのこり月（垂）藤田恵子
山荘に賑わい消えて枯木立（垂）山田としふ
梅雨明けかセミの鳴き声耳おおう（西）芝田律子
窓辺打つ寝ぼける蝉や終い風呂（西）寺岡洋子
桜木に居る居る居る居る熊ゼミが（西）濵頭ミノル

短歌

花山短歌会（北区）

めっきりと回数減りし回覧板上下正しく印鑑を捺して　古林保子
少し前空き家となりし庭に咲く花多く雑草に埋れし哀れなり　磯元カヨ子
良く見れば葉の青々と山ももの光あふるる大樹はそよぐ　船崎めり子
この着物を如何なる服に仕立てるかファッションショウは九月の半ば　山田加壽代
救急車呼んでと友の電話あり焦るな焦るな焦る我なり　清水恵子
我が影をうかべて流るる紀の川の中州に一羽白き鷺見ゆ　木下いく子

◆個人

野分去る朝の小径に白萩の小枝裂け落つ花の哀しみ（灘）上田節子
どくだみも摘み・干し・焙じて茶葉となりサロンの冷茶皆で楽しむ（兵）大賀清子
ほほえみて我をみつむる幼子に平和な時間が永遠に続けよ（北）箱守喜久子
祇園さん予約出来たとさそいあり三年ぶりの友の声はづむ（北）眞木香代子
朝まだきバイクの音の近づきていつも通りに届く朝刊（須）江口啓子
糠床の機嫌はよろし茄子胡瓜色よく漬かり今朝の食卓に（西）松浦妙子

川柳

桂木ひふみ会（北区）

ちょっと待て真顔気になる生返事　荒木宗Q
生返事キャッチボールの老い二人　京念久美子
はいはいと頼まれたことすぐ忘れ　笹岡淑子
「元気でっか」「まぁーまぁーでんな」浪速っ子　杉尾悦子
オーイハーイこだまひびく二人連れ　大和ケント

筑栄会（北区）

孫来たる財布は休めぬ夏休み　あきら
定年で毎日毎夜夏休み　よし
夏休み枕並べて昼寝する　まり子
スナックの五〇周年ママいくつ　かほう
温暖化大雨地域北へ行く　三茶
置き場所を変えて忘れて大騒ぎ　まさこ

桃山台クラブ文芸部（垂水区）

十七年夢でも会えぬ娘となりぬ　大上昭敏
時過ぎて令和の世にも馴む日々　小高肇

◆個人

届きたる故郷の香りなつかしき（東）早川キミエ
病院はマスク美人が花盛り（東）増田芳之
母慕い老犬張っぱり墓まいり（灘）岸本孝義
悔いはない吾は貧しく孫外遊（北）かんいち
区老連仕事多いよ苦楽連（北）北野利一
健康で長生きし過ぎて保険切れ（北）宮内美栄子
黄昏に雷遠く雨を待つ（西）藤長文子

へなぶり

なせばなる家事手伝をやってのけ
デーサービスは体調悪い　（北）清水久子